

放射線治療最近の進歩と島根県の現状

うち だ のぶ え もり やま まさ ひろ かわ ぐち あつ や
 内 田 伸 恵 森 山 正 浩 川 口 篤 哉
 よこ かわ まさ き いけ だ しん
 横 川 正 樹 池 田 新

キーワード：がん，放射線治療，高精度放射線治療，小線源治療，
 がん診療連携拠点病院

要 旨

がんの放射線治療の歴史は100年余であるが，最近ではコンピュータ技術の進歩に伴い照射技術が格段に向上した。これにより，副作用が少なく局所制御率の良好な高精度放射線治療が可能となりつつある。島根大学病院も1981年の開院直後より放射線治療を開始し，経験と症例を重ねてきた。その間，装置の更新と最新治療の導入に加え，放射線治療を専門とする診療科の開設など，より良い放射線治療を提供する体制を整えてきた。前立腺がんのヨウ素シード永久挿入療法，定位放射線治療や強度変調放射線治療（IMRT）の開始，特殊なアイソトープ治療などである。一方で島根県で放射線治療の専門的医療者は不足しており，県内の地域格差も大きい。本稿では放射線治療の概略と島根大学病院および島根県での現状と課題を紹介する。

はじめに

1895年，レントゲン博士が放射線（X線）を発見したが，翌年には放射線をがん治療に応用する試みがなされたとされる。それ以来がんの放射線治療は100余年の歴史を刻んでいる。

現在では，放射線治療は，手術，薬物療法と並ぶ「がん治療の3本柱」と称されている。日本ではがん患者のうち放射線治療を受ける人の

割合は20%程度とされているが，これは欧米の50-60%の半分以下である。その理由として日本人に胃がんなど放射線治療が適応となりにくい種類のがんが多かったこと，放射線治療装置の整備の遅れ，放射線治療医や技術者が欧米に比べ極端に少ないこと，放射線被曝に対する国民の恐怖感などが考えられている。

今後，人口のさらなる高齢化，放射線治療が適したがん（肺がん，前立腺がん，乳がんなど）の増加，医療情報の普及などにより，日本でも放射線治療の適応が広まると予測されている。放射線治療は近い将来特殊な治療ではなくなると考えら

Nobue UCHIDA et al.

島根大学医学部がん放射線治療教育学（放射線治療科）

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1